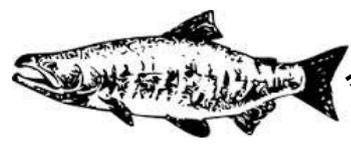


一人ひとりを伸ばす 2 学期



秋サケ漁。
安全操業で
お願いします。

夏休み明けの登校日、玄関には、はきはきとした朝の挨拶と子ども達の笑顔があふれていました。大きな荷物を抱えて入ってくる子ども達は、口々に荷物の重さを先生方に訴えていましたが、それさえもうれしそうに話しているように聞こえました。友達や先生との学校生活が始まることを楽しみにしていたのだろうと、感じる事が出来た朝でした。

1学期の終業式で「直接体験」の大切さをお話しましたが、始業式での子どもたちの発表や夏休み作品展の一つ一つに、子ども達のがんばりと貴重な体験を積み重ねたことが感じられとてもうれしく思いました。一緒に取組んでくれた「お家の先生方」に感謝いたします。

1学期は、学級開きに始まり学習や生活のルールが新たに決まり一步一步確実にすすんできました。植物の生長に例えるならば、土壌が耕され、そこに個性豊かな芽が出始め、本葉が出始めた時期と言っていいでしょう。2学期は、その一つ一つ（一人ひとり）がさらに大きく生長（成長）し花を咲かせる時期です。学校と家庭が一緒になって、優しく時には厳しく、そして丁寧に指導していきたいと思ひます。

ある新聞に【「ワクワク」は無限のエネルギーだ】と言う記事がありました。内容は、子ども達に向けたメッセージでしたが、私たち大人が子育てを考える時にも参考になるいいお話でしたので、紹介します。

やる気はあるけど「ガソリン」が足りない
 疲れてきたり、長く学習をしていたりすると、頭では分かっているけど、なかなかやる気が出ない状態におちいることがあるだろう。こんな時に限って「早くやりなさい」なんていわれて余計にやる気が出なくなってしまうこともあるよね。でも、やりたくないわけではないので、まったくやる気がないってわけではないよね。そう、君たちにはやる気はあるんだよ。ただ、君たちを動かすエネルギーが少し足りないだけなんだ。車に例えるならガソリンが入ってないって感じだ。スタートキーをいくら回しても、エンジンがかからないガス欠の状態なんだ。君たちに足りないガソリンにあたるものは「ワクワク」なんだ。

テーマパークに行くのに、電車が目的になっていないか
 君たちがワクワクしないのは、ワクワクしないものを目標にしているからなんだ。たとえば、テーマパークに遊びに行くときに、電車に乗ることや途中の乗り換え駅を目指しているようなものだ。これを目指してはあまりワクワクしないよね。じゃあ、どんな時にワクワクするかというと、着いてから「あれに乗ろう、あれが食べたい」なんて考えている時だ。そう、これがワクワクするコツだ。だから、君たちも目標を「中学生になったらこんなことしよう、大人になったらこんなことで社会に貢献しよう」と考えるようにしたらワクワクしてくるんだ。このワクワクが君たちのエネルギー、つまりガソリンになってくれる。さらにこのエネルギーは何と無限だ。だからこのエネルギーを使っていると、大変なことをやっても少ない疲れで取組める。逆にワクワクを使わずに取り組むと、すぐにエネルギー切れになってしまい、疲れ果ててしまうってわけだ。だから、もっとワクワク出来ることを目標にして、無限のエネルギーを味方につけよう。

大人にも「無限のエネルギー」が、まだまだあると、読んでいて私は感じました。
2学期も、どうぞよろしくお祈いします。

校長 音川 忠志